



キャンパス / 北海道札幌市、函館市 学生数 / 18,094人
 学部 / 文、教育、法、経済、理、医、歯、薬、工、農、獣医、水産
 大学院 / 文学、法学、情報科学、水産科学、環境科学、理学、農学、生命科学、教育学、国際広報メディア・観光学、保健科学、工学、総合化学、経済学、医学、歯学、獣医学、医理工学、国際感染症学、国際食資源学、公共政策
 THE世界大学ランキング2023 / 501-600位、同日本版2022 / 6位、THEインパクトランキング2022 / 10位

CASE STUDY

教育・研究をSDGsにひも付け 大学ブランドを再構築

北海道大学

SDGsを基にしたTHEインパクトランキングで国内1位、世界10位の北海道大学。ランキングをきっかけに、SDGsを前面に打ち出した教育・研究の特色化が始まった。



副理事 URAステーション長・特任教授
創成研究機構 副機構長

阿部 弘

あべひろし ● 1983年筑波大学大学院理工学研究科修士課程修了、東京工業大学大学院総合理工学研究科修士課程修了(社会人)。化学メーカー、社内シフトワーク会社勤務を経て、2019年北海道大学URAステーション長に就任、2022年4月より現職。博士(工学)。

ランキングで気づいた 自学のアイデンティティ

本学は第4期中期目標・中期計画の中核に、「教育・研究の両面で、SDGsの世界の先端レベルで貢献する大学」を据えています。SDGsを取り入れたきっかけは、THEインパクトランキング2020における国内1位の座の獲得です。この好成績について振り返り、本学の歴史は課題解決への貢献という、まさにSDGs精神の歴史だったと気づきました。本学は創設以来、北海道という過酷な自然環境下で、産業や暮らしの質を高めることを研究ミッションとして背負っています。1996年には「サステイナブルでハイブリッドなキャンパスの創造」を目標の一つに掲げ、2008年にはG8大学サミットにて「札幌サステイナビリティ宣言」を採択。

研究をSDGsに 向かわせるマネジメント

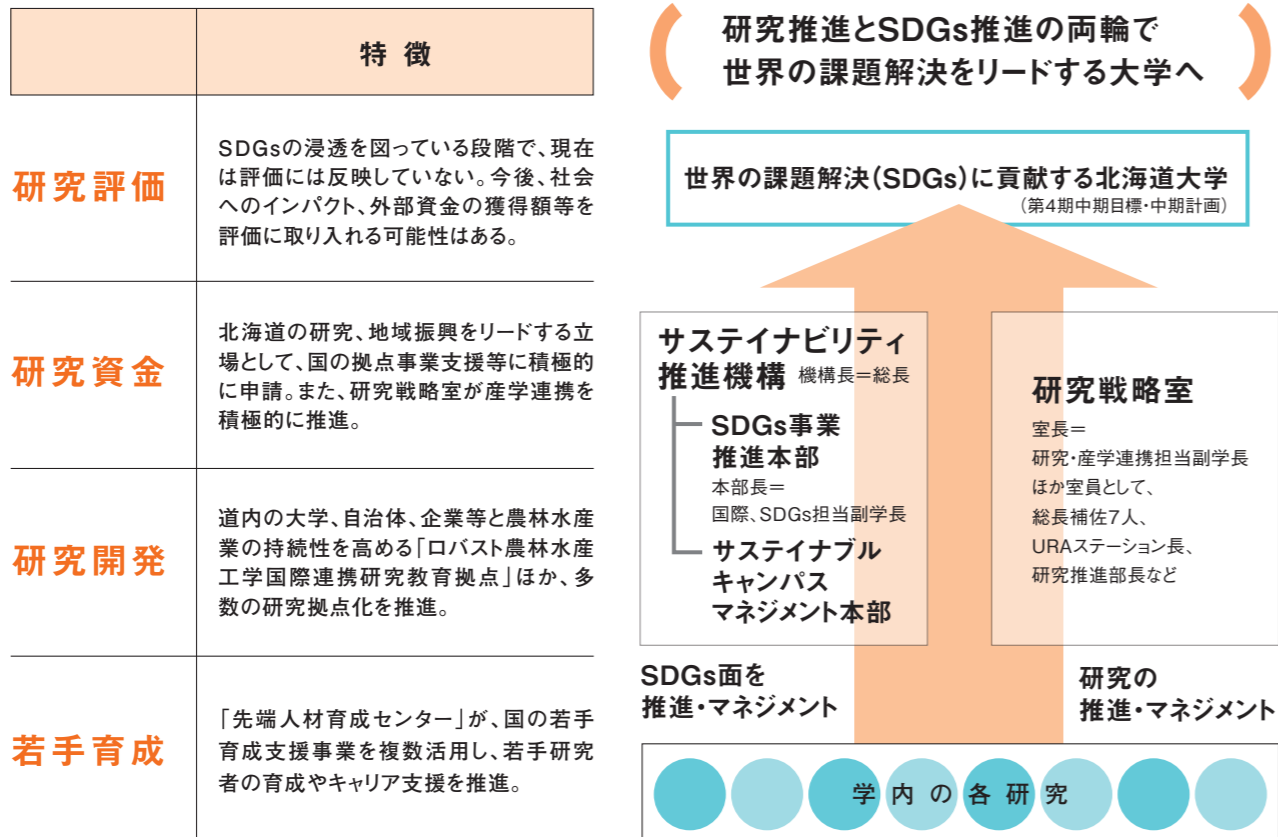
大学の研究は各研究者の自由意志で行われるべきで、テーマの強制はできません。とはいえ、世界最先端レベルのSDGs研究をめざすには、大学全体の研究を方向付けるマネジメントが必要です。そこで、研究者の志向が自然とSDGsに向かうような意識付けを試みました。自身の研究や担当科目に、関連するSDGsの目標番号を付してもらい、シラバス等で公表。開学以来、受け継がれてきたサステイナビリティ精神を知り、FD・SDも開催しました。「自

分には関係ない」と思っていた研究者も、振り返るとSDGsと無縁ではないと気づきます。さらに、そうした取り組みの総体が大学ランキングという形で認められていることもモチベーションになったでしょう。結果として、研究にSDGsを切り口とした新たな視点を取り入れられたり、成果をSDGsにひも付けて発表したりといった動きが出ています。

大学としても、北海道の課題解決、道民のウェルビーイングに資する研究事業を積極的に推進中です。2022年度から函館市と進める*養殖研究は、地域カーボンニュートラルの実現につながるもの。また、同年度、ソニーグループと農林水産分野の環境課題解決に向けた共同研究も始めました。自治体や企業もSDGsに敏感なので、連携を組みやすくなったと感じます。

2023年度から1年次必修科目の中で、北大のSDGs教養を開始し、今後は教育面でもSDGsを打ち出していきます。大学の直接的な支援だけでなく、企業人や研究者となった卒業生が、北大出身の誇りを持って社会課題の解決に臨むことにより、北海道、さらに世界のウェルビーイングが実現する未来を夢見ています。

研究マネジメントの特徴とその工夫



注目!

小中高のSDGs教育の高まりと連動 Webやテレビで活動を発信

SDGsは小中高の教育にも、探究活動の題材等として急速に取り入れられ、今後は幼い頃から日常的に社会課題を学んだ「SDGsネイティブ」が大学に入学してくる。そうした動きを受け、高大の教育をスムーズに接続させようと、北海道大学はSDGsに関わる活動の発信を強化している。

特設サイト「北海道大学×SDGs」では、研究プロジェクト、フィールドワーク、サークル活動などの取り組み例や研究者へのインタビューを、17目標のアイコンと共に紹介。受験生向けに制作した、「北大で学ぶSDGs」として授業科目等を紹介するPDF形式のリーフレットも掲載した。このような研究・授業紹介は、オープンキャンパスでの説明会や模擬授業でも行われている。また、道内外のメディアとともに、本学の研究成果の社会への展開をめざして、SDGsに貢献する番組づくりやイベントの共催なども推進している。

「これから入学する学生が高校までに育てた関心を大学で大きく広げ、SDGsの行動主体になってもらいたい」と阿部副理事は語る。

SDGsを軸とした広報



*内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」(2022年度)に採択された「魚介藻類養殖を核とした持続可能な水産・海洋都市の構築～地域カーボンニュートラルに貢献する水産養殖の確立に向けて～」